

「白い彼岸花」が咲いています！

今年も、田んぼの畦道に彼岸花が咲き始めました。黄金色の稲穂と鮮やかな赤色の彼岸花、畦道の緑色が映えて秋らしくなってきました。

彼岸花は中国から日本に伝わり、球根で増えていきました。繁殖力が強いので日本全域でみられるそうです。球根にはアルカロイドという有毒性の物質が含まれているため、そのまま食べてしまうと下痢や嘔吐などの症状を起こすので、子どもたち、毒があるから食べてはいけな



いと教えられた記憶があります。また、彼岸花はその毒性を利用して、田んぼやお墓に集まる害虫除け、モグラやネズミなどの小動物から農作物を守るために植えられた経緯もあります。散歩中、「白い彼岸花」を見つけました。紀美野町ではまだ珍しい白色の彼岸花です。

私が初めて「白い彼岸花」見たのは、2006年の9月、奈良県明日香村の石舞台古墳を訪れた時で、白い彼岸花もあるのだと驚かされました。この飛鳥歴史公園に咲く白い彼岸花は自生ではなく植えられたもので、関西でも群生が見られる場所として有名だそうです。9月から10月の限られた時期にしか見られないので、貴重な経験でした。「白い彼岸花」は赤い彼岸花と黄色の彼岸花のショウキズイセンを交配してできたと言われ、今では園芸用として球根が売られています。



白い彼岸花はまだ珍しいですが、赤い彼岸花を見ると、この物語を思い出してしまいます。

「お午がすぎると、ごんは、村の墓地へ行って、六地藏さんのかげにかくれていました。いいお天気で、遠く向こうにはお城の屋根瓦が光っています。墓地には、ひがん花が、赤い布のようにさきつづいていました。と、村の方から、カーン、カーンと、鐘が鳴って来ました。葬式の出る合図です。やがて、白い着物を着た葬列のものたちがやって来るのがちらちら見えはじめました。話声も近くなりました。葬列は墓地へは行って来ました。人々が通ったあとには、ひがん花が、ふみおられていました。」『ごんぎつね 作・新美南吉 偕成社』より
いよいよ彼岸の中日です。

(令和4年9月22日)